

### 3 週間目

「初めてお姉ちゃんのおっぱいを飲んでからもう三週間目かーんふふ、すっかりいい子なっちゃったね」

「じゃあ、ご褒美を上げるわね」

「ほら、アナタの大好きなお姉ちゃんのミルクよ、たくさん飲んで♡ おっぱいにしゃぶりついて、ちゅっちゅしていいわよお、アナタはお姉ちゃんの弟なんだから、この大きなおっぱいに甘えていいのよ。何も考えずに安心してお姉ちゃんのいうことだけ聞いてね」

「ん、あはっ、スーッ着てるのに、さっそくおっぱいに顔を擦りつけてきて…♡」

「もう、すっかり甘えん坊になってくれてお姉ちゃんうれしい はーい、じゃあ、お姉ちゃんの洗脳ミルク飲みましょうね♡ ママの母乳だと思って、たらふく飲んで、いいコになっちゃいましょう。んふふっ」

「んんッ、んんッ♡ はい、両方のお胸を出したわよ」

「どっちもアナタのもの♡ 好きなほうを選んで♡ 右は少しおっぱいが少ないけど、甘くて濃いわ。左はジューシーでたっぷりミルクが出る感じよね。アナタのために改造してもらったおっぱいだから、アナタの大好きなミルクはいっぱい出るようにしてもらったの。お腹いっぱいになるまで飲んでいいのよ」

「はふ、あふううッ、そっちのおっぱいにするのね。じゃあ、いっぱい吸って、あ、あっ、ああっ、あはあーッ♡ お手てで、ちゃんとおっぱいを揉んだり♡ あ、ああ、搾ったり♡ あふ、あふ…あふうう…すっかり、ミルクが大好きになってお姉ちゃん嬉しいわ」

「あ、あんッ、あんんッ、そうッ、そうよお」

「すっごくお上手、お上手う♡ んふ、んふうッ♡ おっぱいを根本から、ぎゅっぎゅって搾ると、いっぱいお姉ちゃんミルクが出るのよお、あふ♡」

「本当に賢くて、いい子ね。んふふ、いい子の撫でなで、してあげる」

「いい子いい子。な〜でなで、な〜でなで♪」

「もう正義の味方さんみたいな、危険なこともしなくなったし、昔の弟くんみたいにアナタが戻ってくれて、本当に良かったわあ♡ ああ、とってもかわいい。いっぱい抱きしめちゃう」

「ぎゅーーっ♡」

「お姉ちゃんとずっと一緒に暮らしましょうね。アナタは何にも考える必要はないの。お姉ちゃんに甘えて、おちんちんおっきくなったらエッチして、永遠にここで一緒に居ましょう♪」

「お姉ちゃんの二つのおっきなお胸で、窒息するぐらい、えい、えいッ、ぎゅっぎゅしてあげる。んふう、おっぱいの間に、アナタの顔を挟んで、んんッ、むにむにの、おっぱいサンドよお♡ んふ、んふう♡」

「大きなお胸の柔らかな感じは、どうかしらあ♡ お姉ちゃんのぬくもりも、香りも、ミルクも、何もかも、アナタのものよ、思う存分、堪能してね♡」

「んッ、んんッ、んはあッ、んああッ……どうしたの、お乳の先に吸いついて、あ、あはああ……あんッ、おっぱい、もっと飲みたいのね」

「いいわ、そう、そうして、盛りあがった乳房の根本から先へ、ぎゅう、ぎゅううって、し、搾って……あ、ああ……あはああ……ッ……」

「幸せ、幸せっ♡ お姉ちゃん、アナタにミルク吸われるのとっても幸せなの。びゅっびゅ、いっぱいミルクでちゃう♡ もっと吸って、いっぱい吸って♡」

「アナタもお姉ちゃんのミルク、洗脳ミルクで頭真っ白になるまでとろけるの大好きでしょ？ いいのよ。お腹いっぱいになるまで吸って、お姉ちゃんの事以外忘れて赤ちゃんまで戻っちゃうの……お姉ちゃんのエッチな洗脳ミルクに負けちゃって、ミルク吸うことだけ、お姉ちゃんに甘えることだけ考えて生きていくの、素敵なことでしょ？」

「んあっ、ミルクいっぱいしゅわれるの気持ちいいっ♡ もっと吸って、アナタも幸せに、洗脳ミルクで幸せなことだけでいっぱいになるの♡ ふあっ、んふうっ♡ お姉ちゃんおっぱい吸われるだけでイっちゃうの♡ いっぱああああ——ッ♡♡」

「あ、あん、あんん、ほら、飲んで、真っ白で甘——くてトロトロにしてくれるアナタの大好きな洗脳ミルク。全部、アナタに飲んれほしいのお、あはあッ……」

「んふう、そうよ、先っぱに吸いついて、ちゅば吸いしてえ♡ ふあっ、んっ♡……どんな吸われて♡……お姉ちゃん幸せで気持ちよくて……いいよ、もっともっと♡……何も気にしないでいいの、何も考えなくていいの……はあ、んあっ♡……大好きなお姉ちゃんのおっぱいに顔をうずめておっぱいを吸って……嫌なことくだらないことも全部忘れて……ん♡ お姉ちゃんのことだけ考えながらミルクを吸うの。とっても素敵でしょ？」

「はあ、はあっ♡……んあ♡……ふう、ふー♡……あ、あっ♡」

「んふふ、お姉ちゃんのミルク大好きになってくれて、とっても嬉しいわ。こんなにミルクでおかおべちゃべちにしちゃって……おねえちゃんもアナタにミルク吸われてとっても幸せだったよ」

「あ、おちんちんもまた大きくなって、んふふ。そうね、お姉ちゃんにも弟くんのミルク。とっても濃いせーしミルクいっぱいごちそうしてね。空っぽになるまでお姉ちゃんを出したらまたお姉ちゃんのミルクで満たしてあげる。ずっとずっと、お姉ちゃんと一緒だよ」

「はあ、はあ♡ きちんとおちんちん勃起しておねだりできるなんてイイコイイコ……いっぱい白くてドロドロのミルク射精したいよね」

「じゃあ、今度は、おまんこでぎゅっぎゅして、おせーし、びゅーびゅーしましうね」

「空っぽになるまで、お姉ちゃんのドスケベおまんこ、使っていいのよ。私は、アナタだけのお姉ちゃんなんだから♡ 座ったままでいてね♡ お姉ちゃんが跨がって、ぎゅうう、って抱っこしながら、射精のお世話、してあげるから♡」

「たーっぷり、精液を出しちゃって、正義の味方だったこととか、お姉ちゃん以外の大切な人とか、くだらない信念とか、もうほとんどビュッびゅって出し切っちゃったから最後の絞りカスも射精しきって、きれいに忘れちゃおうね」

「それじゃあ、弟くんのおちんちんに！……お姉ちゃん、腰をゆっくり落としつつはいまーす」

「ほーら、お姉ちゃんのところの穴だよ！……いつものようにおちんちん突っ込んで白いのいっぱい出しましょうね。アナタの大好きなおっぱいにしゃぶりつきながら腰をへこへこして、せーしいっぱい吐き出すの。空っぽになったらお姉ちゃんのミルクで補給してまたいっぱい出していいの。好きなだけおちんちんからせーしびゅっびゅってしていいよ♡」

「じゃあ、弟くんのおちんちん、いただいちゃうわね♡」

「んんッ……はあ、んあっ♡」

「あ、ああ、あはああ……お姉ちゃんまんこに、可愛いオチンポが入ってきて♡ あんッ、入れられただけで、お姉ちゃん、胸がきゅんきゅんしすぎてえ。ふー、ふー♡……アナタのおちんちんもすっかり素直になってお姉ちゃんの中でビクンビクン喜んでるね。えらいえらい」

「ふふふ、もう必死に腰振って気持ちよくなろうとしてるのカワイイ。お姉ちゃんもアナタのヘコヘコピストンに合わせてばちゅんばちゅんオマンコ上下させてあげますねー♡」

「どう？ お姉ちゃんの中。どんなおちんちんでもフィットするように改造してもらったのよ。アナタのカワイイおちんちんもほら。ムギユって包んで全部気持ちいいでしょ？」

「うん、いいこいいこ。お姉ちゃんがもつともつと何も考えられなくなるくらい気持ちよくしてあげるからね♡」

「あ、あっ、ああっ、このまま腰をもっと動かして、おちんちん全体を、気持ち良く扱いてあげるわね。はあっ、はあっ♡……んふうっ♡」

「お姉ちゃんのヒダヒダが絡んで、硬く張った亀さんを、たくさん扱いあげる♡ えらいえらい、しこしこしこッ、しこしこしこッ♡ えらいえらい♡」

「ん♡ 先っぽがビクビク震えて、もう出ちゃいそうって、おちんちんが言ってるわねえ。いいのよ好きなきに出しても。お姉ちゃんにいくら出してもいいの。あ、ああ、このまま、お姉ちゃんのドスケベまんこに、アナタの元気なおせーし、いっぱい、どっぴゅどっぴゅ、吐きだして頭真っ白になりましょうね♡」

「そしたら、お姉ちゃんの洗脳ミルクで新しいアナタを書き込んであげる。とっても可愛くていいコになるの♡」

「ほら、出して、出して♡」

「今までのアナタの全部出しきって、アナタの大好きなお姉ちゃんがとろとろの膣で全部搾り取って上げる。だから、こ、濃くて熱いの、いっぱい流しこんでえ♡」

「はあ、はあ♡……ふう、ん、んっ♡ ほらほらほらあ、ほらあ、出して、出してえ♡ 誘惑に負けちゃってもいいの。頑張らなくてもいいの。気持ちいいことだけ考えておちんちんへこへこするのえらいえらい」

「びゅっびゅっびゅううッ、びゅっびゅっびゅううッ♡」

「んはあっ♡ そうそう、お姉ちゃんの中、子宮いっぱいになるまで、アナタの中空っぽになるまで射精、射精。えらいえらい。んっふあ♡ 熱くて、濃いの、い、いっぱい来て……」

「いいコ、いいコ♡ いっぱい出してるよ。お姉ちゃんの中にぶびゅびゅびゅってアナタの全部。あは、とってもいいコでちゅね……あ、ああ……まだ、沢山出て。あふ、ん♡ アナタのこれまでの全部が詰まった精子美味しい。ふふふ」

「ほら、お姉ちゃんのおっぱいに埋もれて全身で気持ちよくなっていいのよ。フー、フー♡ とってもカワイイ弟くん。ん♡ あふれるぐらい射精して、もう心の底からとろけてる顔。とってもカワイイ。いいの、情けない顔して情けない声出しても。もうアナタは正義の味方でもなんでもなくなるのだから。とってもいいコになるの。お姉ちゃんの言うことを聞くだけのとってもいいコにね」

「全部出しきったのね。えらいえらい。本当にえらいわあ♡」

「さあ、ご褒美のミルクでちゅよ。アナタの大好きな洗脳ミルク。お姉ちゃんがアナタの中、全部新しく書き込んでとってもいいコにしてあげる」

「ふぁっ♡ そうそう、遠慮なんてなくなってお姉ちゃんのおっぱいに吸い付いてくれるようになったのね。えらいえらい。お姉ちゃんも頑張っでとっても濃いミルク出してあげる。空っぽになったアナタにお姉ちゃんの洗脳ミルクを染み込ませていくの」

「あ…： 出したばかりなのにもうこんなに固くして♡ いいのよ、ミルクを飲みながら中に入れたまままた好きなおちんちんで気持ちよくなっでいいの。んふ、すぐに大きくなっで、お姉ちゃんの中で暴れてる。とってもカワイイよ。とってもいいコね」

「これでお姉ちゃんのことだけ考えてくれる弟くんになったのね。いいよいいよ。もっといっぱい、お猿さんの様におちんちんを奥にぎゅっでして♡ 突き付けたまま、頭真っ白になるまで、気持ちよくなっでせーし出してえ♡ お姉ちゃんのミルク飲みながらお姉ちゃんに精子ビュッビューっで出して、ぐるぐる幸せに暮らしましょう♡ これでいいの」

「あ、あ♡ おちんちんで奥まで♡ いいよ、お姉ちゃんも気持ちいいよ。一緒に気持ちよくなろう♡ このまま、ずっとずっとセックスしましょう♡ あ、あ、あぁ♡ お姉ちゃん、怪人さんになれて、幸せ♡」

「アナタのこと、こんなにも気持ち良くて、疲れることもなく、ずっと、ずっと、ずっと、セックスできちゃうんですもの」

「あはッ、あはぁッ♡ ん、んんっ♡…： ふぁ、あ♡ あぁッ♡♡♡」